公益社団法人 日本山岳・スポーツクライミング協会
令和 3 年度 第11回 Web 理事会・議事録(抄録)

日　時：令和4 年 1月13日(木) 14：00～17:00
場　所：JSPSビル3F会議室とWeb のハイブリッド会議
出席者：丸会長、亀山副会長、小野寺専務理事、古賀、村岡、相良、蛭田、濱田各常務理事、山口、町田、前田、山本、六角、青山、水村、栗田、水島、野村、安井、小竹、笹生、原各理事
中畠、古屋各監事
欠席者：小日向副会長、高野副会長
同席者：赤尾浩一事務局員

1.開　会
2.会長挨拶
皆様、明けましておめでとうございます。昨年はコロナ禍の影響で社会が停滞気味でした。
今年はギヤーを切り替えて業務を進めて行きたいと思っております。
理事の皆様には洞察力（insight）をもって、新たな課題に取り組んで頂きたい。
よろしくお願いいたします。
3.会議成立状況報告
理事数 24名中２２名出席　　監事数2名中２名出席(定款第 33 条、定足数=12名(1/2 以上))
4.議長選出
会長が議長を務める(定款第 32 条)
5.議事録署名人
会長及び監事(定款第 34 条)
ホストは小野寺専務理事が務める
6.議　題

議案第1号 議事録の承認について
事前送付された2021年度第10回理事会議事録に関して全員異議なく承認された。

議案第2号 山岳スキー強化計画について
　本議案は議論の結果、ガバナンス委員会の精査を受けた後、令和４年２月理事会にて再審議することになった。
　議事経緯：
　笹生山岳スキー委員会委員長ならびに小竹担当理事より配布資料に従って説明がなされた。
1.強化選手候補者、島徳太郎、滝沢空良２名の経歴、選考理由
２．理事会に提出された選手選考規程（案）はガバナンス委員会の校閲を受けておらず、理事会でも未承認であること。
３．世界選手権出場選手は２０２２年宇奈月日本山岳スキー選手権大会での成績上位の者を
充てる。
山口ガバナンス委員会主管理事より、選考基準に関して,選考過程の公平性、明確性、透明性等を明確にする意味でもガバナンス委員会にて一度目を通しておく必要があると思う、との発言があった。
以上を踏まえて、山岳スキー競技大会選手選考規程に関しては、ガバナンス委員会にてチェックし、問題点（合宿時期等）を整理し解決した上で、２月常務理事会・理事会にて審議することになった。
その他、強化選手の年齢制限（２０２１年度）に関しては慎重に検討する必要があるとの意見が丸会長、安井SC強化委員長、古賀登山部長、中畠、古屋両監事からあった。

議案第3号（報告事項・情報共有に変更）
謝金規程の変更について(強化委員会)
　安井SC強化委員長より現行謝金の見直し要望に関する説明があった。
　謝金上限を３万円とする。
　コーチ陣の数を増やし、かつ次世代（職業コーチ）へのバトンタッチを考慮し、さらに日本代表選手の二次的職業（セカンド・キャリア）の確保も考慮しての改定案である。
　資格別に料金体系を整える。
　小野寺専務理事より以下の補足説明があった。
　JOCのオリンピック競技団体区別は特A,A,B,C,Dと別れている。Dは非オリンピック競技。オリンピック以前のJMSCAはDクラスで年間５００万円が支給されていた。
現在JMSCAはCランクに格上げされている。
7.報告
報告第1号　12月度月次決算報告について
相良常務理事（財務）より事前配布資料に基づき重点事項の説明がなされた。
中畠監事からの要望事項
①特定資産の取り崩しに関するルール化を進めること。
②助成金・補助金見込みの確定を進めること。
③各種大会費用の精算は期末までに必ず行うこと。

報告第2号　2022年創立60周年記念新春懇談会について
　式次第について小野寺専務理事より報告があった。
第一部　　１０：３０～SC・登山関係表彰式
第二部　　１２：００～顧問・参与会
第三部　　１３：３０～新春懇談会
参加役員の服装コードはネクタイ着用、白ワイシャツ、上下スーツ
赤尾事務局員より参加予定者数の報告があった。
第一部　　選手含め８０名程度　座席指定方式
第二部　　顧問５名、参与１０名程度
第三部　　６０名前半程度　座席指定方式

報告第3号 安全登山研修会当該県引継ぎについて
　小野寺専務理事より報告があった。
新春懇談会の翌日（1月１６日）、アルカディア市ヶ谷で開催される。
国立登山研修所と共同して毎年行っている行事で、令和３年度は三重県（東）、佐賀県（西）が担当した。令和４年度は茨城県（東）、島根県（西）への運営方法等に関する引
継ぎである。
　JMSCAからは小野寺専務理事、古賀登山部長、廣川厚子総務常任委員３名が出席予定である。

報告第4号 山形県文書関連訪問報告について
１）亀山副会長の山形県への出張報告書に基づいて、山形県山岳連盟幹部との会談内容ならびに今後の対応案等について、亀山副会長より、報告・説明があった。
２）山形県山岳連盟に加盟の山岳団体は現在１０団体であり、国体・SCに興味がない。事業予算以外にも多くの役員が手弁当で行事に参加している、等々を踏まえて山形岳連は、少なくとも令和４年度は国体・SC関連行事はやらない旨、山形県スポーツ協会ならびにJMSCAに通達した。
３）JMSCAとしては、今後も前向きに柔軟な姿勢で国体・SC競技の継続に向けて
努力を続けてほしい旨お願いした。
４）帰京後、令和４年１月７日、会長、専務理事、古賀登山部長（ZOOM）、亀山の四名にて対応会議を開催した。山形岳連と同様の加盟山岳会１０団体以下のJMSCA加盟団体は１５団体ある（２０２１年度JMSCA名簿より）。協議の結果、問題解決のために、会長諮問機関である「JMSCA加盟団体振興推進プロジェクトチーム」を立ち上げることにした。
PTリーダーは亀山、副リーダーは古賀登山部長が会長より指名された。
５）今後、「PT設立要綱」（案）をガバナンス委員会の校閲、常務理事会承認を受けた後発効させ、PTメンバーの選定及び関連する運営作業を進める。
　神奈川　水島理事コメント：
　　以前から言われていることであるが、
　　実行する気構え、覚悟が問われる。
　徳島　原理事コメント

若者が入ってこない。四国ブロックは４県しかないので、４年に一回ブロック大会担当が回ってくる。担当県で開催される国体ブロック大会の経費の捻出が大変である。
特にルートセッター費用、会場費等で、県からの補助金等ではまったく足りない。毎回大変な負担となっている。
国体ブロック大会に係る経費問題は全国的な共通問題であろうと思っている。

岡山　山本譲理事コメント
PTメンバーにはSC関連メンバー（特に国体関係者）を是非加えて欲しい。

東京　栗田理事コメント
今年東京でも関東ブロック大会が開催される予定で諸々大変である。規模の小さい岳連ではより大変であろうと推察される。
今後の開催に関しては一都道府県岳連・協会が担当するのではなく、都道府県岳連・協会の複数による共同開催を実行できる方向が図れればと考えている。

奈良　前田理事コメント
奈良は小規模ながら近隣県の応援などを得ながら、なんとか賄っている。
各都道府県岳連（協会）の諸事情を拾い上げながら対応策を考えるのが良いと思う。

報告第 5号　山岳スキー日本選手権要項について

宇奈月日本山岳スキー選手権大会要項について笹生山岳スキー委員長より説明があった。また、小竹山岳スキー委員会担当理事より、JMSCA各役員の皆様にも出来るだけ大会に参加して、実際の競技を見ていただきたい旨の要望が述べられた。

報告第 6 号山岳スキー常任委員の追加について
並びに ASMF(アジア山岳スキー連盟)役員選挙結果について

丸会長より、丸山尚子氏のJMSCA山岳スキー委員会常任委員ならびにASMF理事候補推薦理由の説明があった。
１２月２０日ISMFとASMF（アジア山岳スキー連盟）から、役員選挙があり立候補締め切りが１月６日である旨の唐突な連絡がきた。急遽立候補者の選考を行い、幾人かの候補者の中から、資質、経歴、実績、コミュニケーション能力、チームワーク能力、リーダーシップ能力などを兼ね備えている丸山尚子氏をJMSCA山岳スキー委員会常任委員ならびにASMF理事の候補者として推薦した（AMSF理事選挙立候補にはJMSCA役員の肩書が必要である）。

笹生山岳スキー委員長から、１月１０日に実施されたASMF役員選挙にて、以下の２名がASMF理事に当選した、との報告がなされた。

笹生博夫⇒ASMF理事　（JMSCA山岳スキー委員長、理事）
丸山尚子⇒ASMF理事　（JMSCA山岳スキー委員会常任委員）

報告第 7 号 Tokyo2020 検証について

安井SC強化部長より、検証メンバー６名で取り纏められた「東京五輪検証レポート」に基づき要点報告がなされた。
①検証結果総括としては、スポーツクライミングとしては初めてのオリンピック経験、地元開催、コロナ禍による１年の開催延期等々で様々な対応が求められる大会であった。
②競技成績としては目標に届かなかったが、銀、銅各１個を獲得できた素晴らしい成果であった。
③この検証結果を踏まえて、パリオリンピックへ向けて強化委員会事務局を含め、さらなる体制強化を図ることがオリンピック競技団体（NF）として必要である。
④スピード競技種目は難しいと感じていた。施設も競技経験もない状態で東京大会に臨んだが、最終的には何とか強化が間に合ったと考えている。
⑤スピード競技に関してはオリンピック競技になるだろうとの情報を早めに入手していたので、海外合宿などで準備を進めていた。今後は、より早く情報を入手し動くことが大事である、と感じている。
⑥今後、NFとして真のオリンピック競技団体になるためにやるべきこと、整理すべきことは多々ある。特に次世代の選手、スタッフ、組織育成のための人材発掘、育成が重要である。

報告第8号 2021年度全国理事長会議について

小野寺専務理事より配布資料に基づき議題等の説明があった。
２月１３日（日）午前１０時から開催。
場所はZOOM参加者を考慮し日本青年館８階の４０人部屋を予約。
議題は例年通りであるが、保険に関しては詳細説明をする必要がある。
配布資料のペーパーレスにするか否かを検討中（中畠監事は資料配布を提言）。

中畠監事質問：報告８号の内容について
小野寺専務理事回答：山形岳連問題でのPT発足についての説明を予定
中畠監事コメント：題名をもう少し判りやすくした方が良いのでは。
中畠監事質問：オリンピックが終わったので安井理事のオリンピック検証報告を踏まえて簡単な報告ならびに今後のパリオリンピック大会への対応などの報告があった方が良いのでは。
安井強化委員長回答：用意します。

報告第 9 号 SDGs 推進委員会の各委員会纏め報告について

前田理事より報告があった。
各委員会から提出された活動がSDGｓのどの項目に関連付けられるかを纏めている。
マーケッティング委員会の活動は個別の事業をすることではなく、JMSCAの価値向上の活動であり、SDGｓ関連の具体的な取組みはない。あるいは指導委員会活動のＳＤＧｓとの具体的な関連付けなどがないなどの問題がある。ＳＤＧｓ委員会より各委員長に連絡し個別に相談しながら、具体的な内容を詰めていきたい。
ＳＤＧｓの目標は、必ずしも、我々（JMSCA）の活動のために策定されたものではないので、すべての委員会活動に関連付けるのが難しい場合がある。
ＳＣ部からは部単位で方針が纏められている。SC部のＳＤＧｓ取り組みに関しては、ＳＤＧｓ委員会と連携しながら外部へ正しい情報を発信していく。

報告第 10 号 監事監査報告への返答評価について

会長回答から監事宛への回答が画面共有された、小野寺専務理事より各項目について概要報告がなされた。
各報告担当者からの回答に加え、会長として追加コメントがあった。
登山部門の活動状況に関してはいろいろと議論されているが、議論は今の時代にマッチした形で「何をすべきか」についてかなり的が絞られていると感じている。
欧米の動きをみると、トレイルラン、ウルトラトレイル、大衆のロングトレイルなど、ヒマラヤ黄金時代にはなかった種目が行われるようになった。
岳連の加盟人数減少、共済会問題への対応もあるが、高齢者に対する安全登山への導き、無所属登山者や登山計画書を提出しない登山者へのツール提供が求められていると個人的に考えている。
山岳４団体に関しては、それぞれに目指す方向が異なることもあり、JMSCAとしては国立登山研修所あるいは高体連との連携をさらに深め社会貢献、あるいはSDGｓ貢献への形づくりなどを検討している。
減遭難に関しては、読売新聞に神戸の迷い道の道標記事が掲載されて、その中にJMSAC青山理事の名前も紹介されていた。これを見ても、我々の減遭難に対する活動が、それなりに世間では見えていると感じている。
日山協共済会問題に関しては、スマートフォンで、１分で加入できるシステムについて三井住友海上と協議を始めており、２０２３年４月から新しいJMSCA山岳保険システムをスタートさせる。山岳保険の販売ツ

ールを大きく変える計画である。
事務局体制に関して、SC関係の役員がデスクワークができない、山岳スキー関係の役員も今後大幅に増えることを勘案して、来年度５００万円の予算計上をして事務所の改装を計画している。また、クラウドサービスを導入して、誰でも、どこからでもアクセスできる体制を構築する予定である。
SCについては、SDGｓに関わる大会開催中のカーボンクリーン、脱炭素について、いかに正しく検証され、正しく発信されているかが重要である。さらにBMI問題に関してのJMSCA対応は世界に一石を投じたと大きく評価されている。
古屋監事のコメント：
丁寧な回答ありがとうございました。ガバナンスコード、ＳＤＧｓの対応を勘案した中長期経営計画に則り、詳細な改善策、対応策、具体策を回答された部門もあり、また、具体化が難しい部門あるいは着手が難しい部門があるが、今、会長から明確な具体策の追加説明がありましたので、それに則って引き続き各委員会で協議を重ね、有意義な解決策を見つけていただきたい。
時代は急激に変化している。SCでは２回のオリンピック大会を控え、かつ山岳スキー競技もオリンピック競技に加わった。登山部門も老齢化の問題があり、今後その時々で見直ししながら時代に即応した対応を今後共引き続き行ってもらいたい。
中畠監事コメント
会長の力強いかつ具体的な表明を聴いて安心した。
理事会が毎月開催されている。専門分野の理事は議案によって発言の機会があるが、その他の理事の議論への参加が少ない。重要な案件については、毎月の理事会に加えて臨時の理事会を開くなどして、意見を出し合い叡智を結集して問題解決に当たって欲しい。
地方の問題に関しては、現在都道府県別だがブロック単位にする、あるいは賛助金、補助金等をJMSCAから支給できる方策も考えて欲しい。

報告第11号 SC-クライミング大会
村岡SC部長より報告があった。
BJC開催につき三重県健康課から、オミクロン株対応について連絡が頻繁に来ている。現時点では開催方向に進んでいる。
１月２１日に三重県四日市に丸会長、村岡SC部長他で表敬訪問する。その後、有観客か無観客かを決める。全員PCR検査の可能性がある。
なお、国体選手の参加枠・人数は、すべての種別に、種別間の格差のない同一出場数を確保するよう変更されている。（配付資料３，上頁２）。

報告第12号 2022 年度クライミング大会予定
村岡SC部長より配布資料に基づき説明があった。
報告第13号 クライミングイベント・コロナガイドライン
村岡SC部長より配布資料により概要説明があった。
このガイドラインに基づいて各大会が運営される。

報告第14号 ２０２２年 SC 国際競技大会派遣選考基準（日本代表選考基準）について
安井S強化委員長より配布資料に基づき説明があった。

報告第 15 号 SC 第４期ＪＭＳＣＡパリオリンピック強化選手選考について
常務理事会にて承認された事項の報告がなされた。
詳細は資料を参照のこと。
２０２２年度は、アジア競技大会はオリンピックに次ぐ重要な大会とJMSCAは位置づけて
いる。アジア競技大会にて活躍することで、パリオリンピックの強化補助金に繋がる。

報告第16号 高校指導者ブロック別研修会近畿地区
報告なし

報告第 17 号第 29 回比婆山国際スカイラン名義後援承認
例年の名義後援依頼である。

報告第 18 号 役員派遣について（1 月 14 日(金)～2 月 14 日(月)）
(1) 2022 年 JMSCA 新春懇談会 1 月 15 日(土) 於: アルカディア市ヶ谷　丸会長、他
(2)安全登山指導者研修引継ぎ会 1 月 16 日(日)
於: アルカディア市ヶ谷 小野寺専務理事、古賀常務理事
(3)レスキュー講習 1 月 28 日(金)～30 日(日) 於:土合山の家 町田理事
(4)第 17 回ボルダリングジャパンカップ 2 月 5 日(土)～6 日(日)
於:四日市ドーム 丸会長、村岡常務理事
(5)第 35 回リードジャパンカップ 2 月 12 日(土)～14 日(月)
於: 千葉県印西市・松山下公園総合体育館 丸会長、村岡常務理事、他
(6)登山普及情報交換会 2 月 12 日(土)
於: 国立オリンピック記念青少年総合センター 古賀常務理事、他
(7)全国理事長会議 2 月 13 日(日)
於:日本青年館及びオンライン 丸会長、他

号外報告事項
JMSCA発信文書の管理について
最近発生した事例に基づき、小野寺専務理事より経緯の説明があった。
会長記名の外部宛発信文書が会長、事務局の校閲を受けず、発信番号も付与されず、押印もなく、承認のないまま発信された。
今後文書管理を確実にしていただく意味で、令和４年１月６日付けで小野寺専務理事名で各理事に注記喚起のメールに印章規程、文書処理規程を添付して送付した。
山口ガバナンス委員会主管理事コメント
今回は過失によりこのような事態が発生したと思われるが、公益社団法人としてこの種文書が独り歩きしてしまう事態は恐ろしい事である。
文書発信に際して手続き上何か危険性が予知される場合は小野寺専務理事に確認する、あるいはガバナンス委員会宛問い合わせをしてほしい。
丸会長コメント
本件は、ある電力会社に私の名前で寄付金の依頼書面をある委員会の方が、委員会責任者の知らない中で発信した。この文書が外部の方から私宛に届いて驚いた。
私は金融機関で３０年近く仕事をしているが、法人格を名乗っていわゆる「マネーロンダリング」と言われる事件が昨年だけで３６件発生している。重要犯罪である。
今回はこれにかなり近い行為とみられがちであり、会長はじめ常務理事、理事、監事の名前を使って外部に出す文書については、小野寺専務理事あるいはガバナンス委員会を通して十分な手続きを踏んだうえで発信することをお願いします。

各専門委員会の報告について
各委員会報告については割愛(資料参照)。

以　上

令和4年１月13日

記録　亀山健太郎